

新しいワークショップ

「JGS宝石品質判定講座」(パール)

ユーザーにも開放し、同じ目線で

一般社団法人日本宝石協会(JGS・伊藤彰理 会長)の新しいワークショップ「JGS宝石品質判定講座―ルビー」が三月二十六日午前十時すぎ、区立環境情報センターで



①講演する諏訪氏 ②実習風景

開催された。

伊藤理事長は「日本宝石協会は、宝石の素晴らしさを発信すると同時に、宝石のより良い流通環境を創造し、宝石の信頼性を向上させることを目指して活動しているが、宝石の真の姿を過不足なく正しく、自信を持って消費者に伝えることが宝石のプロとして、お客に信頼され、販売する宝石の価値と販売する人々の価値を高めることにつながる」と考えている。昨年来、JGSはCIBJOが採用している

簡易表記を使用して宝石の情報開示を促進しているが、今回立ち上げたワークショップを今後は、一般消費者にも開放し、販売業者と一消費者が同じ目線で宝石を捉えられるようになることで、より透明性の高い流通環境が構築できると考えている。

このワークショップは、参加者に「宝石を読み解く力」を獲得してもらうことを目的としたもので、鑑定資格を授かるものではない。また、皆さまの目利きの力の向上には、情報交換、定期研

修は必要不可欠で、今後のワークショップでは順次、▽サファイア▽エメラルド▽ダイヤモンド▽宝石の価値とレポートの見方、を予定している」と述べた。

従って、今回立ち上げたワークショップでは、宝石の品質の全体像を把握した上で、実際に宝石を手にとって見て、▽この宝石の品質はどこに位置しているのか▽価値はおおよそどれ位か、が目利き出来る、参加者全員が共通認識を持てるスタンダードを表わしている、

としている。

新ワークショップ品質判定講座ルビーの講師にJGS監事諏訪恭一氏を迎え、宝石の見え方、姿と輝き、品質の捉え方と価値の目安、価値目安表ルビー等を講演、ルビーの品質判定の参加者による実習も行われた。

このJGS宝石品質判定講座―ルビーは、四月十五日にも開催する。

JGSは設立以来、Gem-A(英国宝石学協会)の認定教育機関(ATC)として、宝石学教育を日本宝飾クラフト学院とコラボレーションで実施している。宝石シンポジウム、勉強会も。

〈日本貴金属時計新聞許諾〉

※この記事は、日本貴金属時計新聞社の許諾を得て転載しています。

※無断で複製、送信、出版、頒布、翻訳、翻案など

著作権を侵害する一切の行為は禁止されており、